



芸術学科合格体験記

2020年度入学 平山果実

美術史に興味を抱いたのは中学生の頃でした。私の中学校では、美術の授業の課題として、美術館での鑑賞レポートがありました。そのため美術館へひんばんに足を運び、数多くの作品を見ました。美術展でいくつかの絵画を鑑賞するうちに、画家の人生や時代背景などの知識を関連付けながら作品を鑑賞することが面白くなり、美術を本格的に勉強したいと考え始めました。もともと西洋の文化に憧れがあったこともあり、西洋美術史の研究が将来の目標となりました。

高校2年生の時に、東京藝術大学の芸術学科のオープンキャンパスに足を運びました。キャンパスの周囲に美術館が数多くあること、語学や専門科目に加え、実技の授業もあり非常に濃密なカリキュラムが組まれていること、少人数で美学や美術史を学び、穏やかながら刺激的な雰囲気であることに心惹かれ受験を決めました。

受験の際には、センター試験の対策をしながらか、高校3年生の時に二次試験対策として予備校の芸術学科専門のコースに1年間通いました。英語や歴史は、基本的な事項を覚えながら問題演習を繰り返しました。小論文は、論点を1つに絞り論理的かつ明快に書けるように何度も練習しました。試験時間内で問題を解き終わられるようにふだんから時間を計りながら問題演習をすることが何よりも大切だと思います。そして試験の時にはいつもよりも緊張したり、慎重になったりして、問題を解くスピードが落ちるので、試験前から気持ちの余裕と時間感覚をもって問題を解けるようにしておくことが安心です。

入学後は新型コロナウイルスの影響でオンライン授業となりました。しかし、先生方がオンライン会議システムなどを駆使して授業を工夫してください、大変楽しく学ぶことができ感謝しています。芸術学科に入学すれば、充実した学びの日々が待っています。そして、研究したいことが見つかり、日々の学びがもっと楽しくなります。受験勉強では挫けそうになることもあるかもしれませんが、どうか最後まで諦めずに本番に臨んでください。合格をお祈りしています。

芸術学科生の一日常

2019年度入学 村山品彦

1・2年次の午前中には年次ごとの必修授業があり、なかでも特に多くの時間を充てられているのが実技科目です。課題によっては、取り組んでいる最中には泣きたくなくなるほど上手い場合もありましたが、後になってみると、その時の経験によって「作家の手が見える」ようになっていくことに気づかされます。版画制作や写真の現像など、自力では設備を整えづらい分野の技術もあたりまえのように学ばせてもらえる、非常に貴重な時間でした。

必修授業の後には、各々で履修を組んだ授業を受けます。美学・美術史に関する座学系の講義と、語学の授業が多くなるでしょう。それらと並行して教職や学芸員の課程を取る人もいます。美術や語学の知識を蓄えつつ、4年次に執筆する卒業論文のテーマの方向性を考えていきます。一方で、制作・実技系の授業や、音楽学部開講の授業も充実しています。プログラミング・アートや舞台芸術の実践演習は特に楽しく、いまでも印象に残るものです。理論と実践、美術と音楽の別なく、芸術領域における幅広い分野の内容を、自らの興味・関心に従って学んでいきます。

美学・美術史については、発表演習も行います。これは論文執筆に向けた練習を兼ねているため、年次を重ねるにつれて重みが増していき、準備のために文献を読み進める時間も増えていきます。大変ではありますが、そのぶん、それまで知らなかったことが徐々に分かるようになることの面白さ、そして研究の楽しさを、ダイレクトに実感できる場でもあります。

空き時間には、課題を進めたり、藝祭の準備をしたり、時には動物園を散歩したり、思い思いに過ごします。私が1年生の時はコロナ禍の前で、かなり自由にアリエを使えたため、同期達とカレーを作ったこともあり。また、まとまった時間を確保できれば、ギャラリーへ展示を観に行くなど、実際の作品に触れる機会も設けます。学友との親睦を深めるもよし、作品を鑑賞する目を鍛えるもよし、英気を養うもよし、どんなことでも自ら行動した結果は、将来への礎になっていくと思います。

芸術学科を卒業して

2017年度入学 柿崎風香

私は高校生の時、美術展には学芸員以外にマスコミの文化事業の人たちが関わっていると知り、両方の進路を視野に入れて学ぶためにこの大学を選びました。芸術学科は授業が充実していて課題も多いですが、多くの学生は学芸員課程や教職課程も履修しています。私は学芸員課程を取り、他にはサークルや藝祭実行委員の活動、アルバイトにも時間をかけていた学生でした。

芸術学科での学びは多岐に渡りますが、特に2年次の古美術研究旅行が印象に残っています。旅行自体もとても勉強になりましたが、この旅行には割り当てられた作品について調べて発表するという事前課題がありました。私が担当したのは平等院鳳凰堂阿彌陀如来像でしたが、知れば知るほど平安時代後期の仏教彫刻史に魅了され、3年次に研究室を選択する際の決め手にもなりました。勉強すればするほど、考えれば考えるほどわからないことが出てくるので、美術史を研究する世界があまりに広くて深いことをこの時強く実感したのを覚えています。

学生最後の1年間はコロナ禍に見舞われました。予定していた仏像の調査が中止になり、ゼミも全てオンラインでした。旅行の計画もサークル活動も全部飛びました。その分、真剣に仏像と向き合い集中して卒業論文を書き上げた1年間は本当にかけがえない時間だったと思っています。実技の授業で作品が出来上がるまでの工程を実践したり、ひとつの作品について深く追究して発表したりしたことが、全て繋がっていました。芸術学科で学ぶ、作品に基づいた美術史研究には、作品と先達の研究者へのリスペクトが根底にあります。学芸員や研究者を目指すにはもちろんのこと、たとえ研究の道を選ばなかったとしても、この心意気はあらゆることに通じると感じています。

私は学部を卒業後、大学院に進学する同級生も多い中、一般企業に就職しました。最後の1年で研究の面白さを感じてしまったために若干後ろ髪を引かれながらも、それでも私がずっと進みたかった道を選びました。現在は美術とは別ジャンルの企画を担当していますが、いつか美術展に携われるように、今できることを精一杯頑張っているところです。

1:美術館見学 2:基礎造形実技(日本画) 3:古美術研究旅行

Tokyo University of the Arts
Faculty of Fine Arts
Department of Aesthetics and Art History

東京藝術大学 美術学部 芸術学科
入試案内・学科紹介
<http://www.geidai.ac.jp/labs/geigaku/>

AESTHETICS
JAPANESE AND ASIAN ART HISTORY
WESTERN ART HISTORY
HISTORY OF CRAFTS

Department of Aesthetics and Art History

2022-2023

入試について

大学入学共通テスト(外国語を含む3教科・3科目、計600点)、個別学力検査等1日目の学力検査(外国語・地理歴史、計400点)、2日目の実技検査等(小論文または鉛筆素描、200点)の合計点(1200点)に、出願書類(調査書等)の審査を加えて総合的に可否を判定します。

合格者は学力検査等2日目の選択科目(小論文または鉛筆素描)ごとに判定し、原則としてそれぞれの受験者数に応じて合格者数を比例配分します。

なお、詳細については本学入試情報サイトの、本年度の『入学者選抜要項』、および本年11月頃公開予定の『東京藝術大学学生募集要項(美術学部・一般入試)』をご参照ください。

東京藝術大学入試情報サイト <http://admissions.geidai.ac.jp>

大学入学共通テスト	個別学力検査 (1日目) 外国語 地理歴史 計 400 点	出願書類 調査書等の 審査
外国語を含む 3教科3科目	実技検査等 (2日目) 小論文 または 鉛筆素描 200 点	
計 600 点		
合計 1200 点 総合的に判定		

1日目	外国語・地理歴史	1日目の個別学力検査では、入学後の授業において必要となる外国語と地理歴史の基礎学力をみます。
2日目	小論文 または 鉛筆素描	2日目の実技検査等では、芸術学を学んでいく上で要求されるより専門的な能力をみます。受験科目は、入学願書提出時に小論文・鉛筆素描(石膏像)の2科目から1科目を選択します。
3日目	英語	3日目の英語検定試験では、入学後の授業において必要となる英語の基礎学力をみます。

1日目	外国語・地理歴史	1日目の個別学力検査では、入学後の授業において必要となる外国語と地理歴史の基礎学力をみます。
2日目	小論文 または 鉛筆素描	2日目の実技検査等では、芸術学を学んでいく上で要求されるより専門的な能力をみます。受験科目は、入学願書提出時に小論文・鉛筆素描(石膏像)の2科目から1科目を選択します。
3日目	英語	3日目の英語検定試験では、入学後の授業において必要となる英語の基礎学力をみます。

2018(平成30)年度	美術作品における「金(きん)」のもつ意味や機能について論じなさい。
2019(平成31)年度	美術と鏡について自由に論じなさい。
2020(令和2)年度	今まで見た芸術のなかで、衝撃を受けた作品について、具体的に説明したうえで、自由に論じなさい。印刷や映像媒体を通じて見たものでもかまわない。
2021(令和3)年度	図版の絵を見て、そこにとどのような意味や物語が表されているのか、自由に想像して論じなさい(作品に関する知識は問いません)。図版の絵：ロレンツォ・ロット《純潔の寓意》1505年頃、ワシントン、ナショナル・ギャラリー
2022(令和4)年度	芸術の存在理由について、あなた自身の考えを述べなさい。



地理歴史は、試験開始後に世界史・日本史の2科目から1科目を選択します。美術史系の授業の前提となる、歴史の基礎知識を問うことに主眼を置きます。個々の歴史事項に関する正確な理解とともに、複数の歴史事象を結びつけて合理的な論述を展開する能力や、高い視点から歴史の流れを大きくとらえる能力をあわせて問います。両科目とも過去5年間は、記述式問題1題(解答用紙はA4罫紙1枚)と語句説明3問(4問から3問を選択、各問とも解答用紙はA4罫紙1枚)を組み合わせる形式、または語句説明のみ5問(9問から5問を選択、各問とも解答用紙はA4罫紙1枚)を解答する形式で出題しています。

鉛筆素描は、対象を正確に観察して素描する基礎実技の能力を問うことに主眼を置きます。3時間という限られた時間の中で、石膏像のかたちや空間を的確にとらえ、再現的に表現する実技能力をみます。最近の出題例は、次のとおりです。

2018(平成30)年度	あばたのヴィーナス
2019(平成31)年度	パルテノンのヴィーナス
2020(令和2)年度	パルテノンのヴィーナス
2021(令和3)年度	青年マルス
2022(令和4)年度	アリアス

入学後の学びと進路

入学後の学びについて

—— 美学研究室 日本・東洋美術史研究室
西洋美術史研究室 工芸史研究室

藝大の芸術学科のカリキュラムの大きな特色の一つは、実技を藝大各科の教員から学べることにあります。

学部の1、2年次には、週3回午前中に、版画、油画、写真、日本画、彫刻の授業が、それぞれの科の教員の指導のもと、アトリエでおこなわれます。実際に手を動かし、何かを作り出してみることで、美術作品を見つめる眼差しが次第に変化していくことに気がつくことで、本や図版から得られる情報とはことなる、対象への視点と感性が養われることは間違いありません。

一方講義や演習では、専門的な知識を身につけるとともに、自らの考察力、発想力を伸ばします。ほとんどの授業が大学院生も含めた全学年の混合授業であるのも芸術学科の特徴で、入学すると同時に、1年次から専門的な授業に触れることができます。課題を与えられて発表する形式の演習(いわゆるゼミ)の授業では、上級生や大学院生の発表を参考に、配布資料やプレゼンテーションの手法などを実践的に学びます。

美術史や美学を学ぶ上で重要な外国語も、低学年のうちに集中して習得することが望めます。英語の他に、フランス語・ドイツ語・イタリア語を上級まで学ぶことができるほか、各国語の授業が設定されており、音声トレーニングセンターなどの活用もできます。

2年次には、古美術研究旅行(通称「古美研」)がおこなわれます。藝大の「古美研」は、明治38年頃、東京美術学校の時代にはじまった伝統ある見学授業で、美術学部全学科の必修科目です。奈良、京都に1～2週間、教員とともに合宿し、一般非公開の国宝や重要文化財の見学を含めて近畿地方の古社寺や美術館をめぐる。

3年次には卒業論文の執筆題目と指導教員を決め、4年次にかけて執筆します。1年以上をかけてしっかりと取り組み、4年間の集大成としての研究論文を作成します。

芸術学科では教員1人あたりの学生数が8.9人(学部定員/教員数)と、大変充実した少人数教育が実現されています。美学と美術史の分野に関してこれだけの数の教員を揃えている大学は他に見られません。

美学、日本・東洋美術史、西洋美術史、工芸史と、それぞれの専門をになった9人の専任教員が皆さんの入学を待っています。



基礎造形実技(油画)



美学特講(現代美術論)



基礎造形実技(彫刻)



日本美術史演習

卒業生の進路

卒業後の進路は多岐にわたり、芸術学科の卒業生は様々な分野で活躍しています。

なかでも、美術館や博物館の学芸員として働く卒業生は数多く、その活躍ぶりはよく知られています。芸術学科への入学を希望する受験生の皆さんにも、将来、学芸員になりたいと思っている方が多いのではないのでしょうか。芸術学科では、学芸員になるための基礎をしっかり学び、規定の単位を取得することによってその資格を得ることができます。学芸員の採用に際しては、多くの場合、大学院を修了していることが条件となっています。そのため、学部での勉学を終えた後、さらに大学院に進んで専門性を深める場合も多く、芸術学科を卒業する20名のうち、毎年半数近くが本学大学院美術研究科に進学しています。ギャラリーや出版社、新聞記者、美術雑誌のジャーナリストなど、他の美術に関係する仕事にも多くの卒業生が就いています。新聞社やテレビ局などの文化事業部と呼ばれる部署は、展覧会の企画や運営を行うことから人気があります。なかには経験を積んで、世界的に有名なギャラリストとして新人作家を発掘したり、ビエンナーレのような国際美術展を組織するキュレーターも生まれています。

またアーティストとして活躍する卒業生もあります。藝大では学生時代を制作者に囲まれて過ごす中で、芸術的な刺激にもたいへん恵まれます。

大学院に進んで修士論文や博士論文の執筆を目指し、学問をさらに深めることもいいでしょう。研究者として活躍する卒業生も数多く、本学のみならず、日本中の大学で芸術学科を卒業した教員が教鞭を執っています。

【学部卒業者】	【大学院修了者】
岡崎市役所 国立天文台 JR 東日本ステーションリテイリング 東京国際フォーラム 東京都庁 東京労働局 特許庁 横浜市芸術文化振興財団 読売新聞社事業局 毎日新聞社(美術・文化事業部) NHK 共同テレビジョン 東宝 電通 博報堂 読売広告社 小学館 早川書房 フィルムアート社 ポプラ社 アグレックス ニジボックス ベクトル 凸版印刷 ベネッセホールディングス 伊東屋 サンゲツ Too イッセイミヤケ ヴァンドームヤマダ コム デ ギャルソン ヨーガンレール 小山登美夫ギャラリー など	国立西洋美術館 東京国立近代美術館 東京国立博物館 奈良国立博物館 岩手県立美術館 大阪府立東洋陶磁美術館 埼玉県立近代美術館 渋谷区立松濤美術館 島根県立美術館 富山県美術館 東京都美術館 長崎県美術館 八戸市美術館 ふくやま美術館 横浜美術館 サントリー美術館 SOMPO 美術館 ポーラ美術館 三菱一号館美術館 日本芸術文化振興会 朝日新聞社 新潮社 クリスティーブズジャパン 愛知県立芸術大学 大阪大学 京都大学 千葉大学 東京大学 大妻女子大学 学習院女子大学 獨協大学 東京工芸大学 立教大学 など